



申6号 年末手当等に関する申し入れ 第3回団体交渉を行う！ その1

要求額に到底及ばない

怒

2.4ヶ月+2万円

支給日（予定）12月5日（月）

平均基準内賃金：331,020円 平均支給額：814,400円

対象社員数：46,700人 平均年齢：39.1歳

交渉の最後に行った組合の主な主張

- ・物価上昇が拍車をかけ厳しい生活が強いられる中でも、職場が奮闘し、黒字転換を実現した事に報いた回答と言えず、職場の期待も踏みにじられ、回答を聞く組合員の怒り・不信・不満を抱く思いは計り知れず、**到底納得感の持てる回答ではない！**
- ・この回答は組合員・多くの社員のモチベーションを下げ、離職率をも上げてしまうのではと危惧する。
- ・年間5ヶ月にも満たない期末手当回答で、よしとしているのであれば、その認識・姿勢は質すべきだ。
- ・過去最高を連続し業績が好調の時は「突出感」などを理由に、月数が据え置かれ、業績が悪化した時は「足元の動向」などを理由に賃金がカットされ、業績が回復すれば「好循環をつくり出すことによって還元出来る」とし、**黒字転換すれば、「樂觀できない」「予想を下回った」「見通しが不透明」「会社の持続的発展が社員還元につながる」**などを理由に賃金カットや抑制されては、働く側はたまらない。
- ・赤字になれば黒字必達、上期黒字になれば下期の黒字必達に向け社員へのメッセージなどで「変化を恐れず果敢に挑戦」「みんなで力強くチャレンジを続ける」などと**更なる一層のチャレンジと鼓舞され、賃金が抑制される一方で、まさに「馬車馬のように働け」と言われているようなものである。**
- ・再三にわたり述べてきたが**「組合員・社員の力、モチベーション維持・向上なくして会社の持続的発展は成し得ない」**、その実現に向け労働条件の最たる賃金で応えよとの経営姿勢に改めるべきである。

席上妥結の判断には至らないことから、組織で議論をして判断していく！



会社の主な回答

- ・職場のみなさんの努力によって黒字をしっかりと達成できた。要素は様々あるが、変革2027の施策についても動き出してきている。社員の皆さん1人ひとりが安全・安定輸送、高い輸送サービス、価値創造の実現に向けて取り組んだことの現れであり、10月31日の社長メッセージにもある通りである。
- ・第2四半期決算は黒字を確保することができた水準である。厳しい課題、取り巻く状況などを勘案して回答している。プラス2万円を含めて、社員の皆さんが頑張ってきたこと、今後のチャレンジに対する高い期待として踏み込んだ回答である。**覚悟を持っての最大限の回答である。**